



災害復旧

北塩原村 蛇平・小野川線の災害復旧の支援を行いました

北塩原村では令和4年8月3日～4日の豪雨による被害が、道路3路線(3箇所)、河川4本(11箇所)で発生しました。

このうち、村道蛇平・小野川線では付近を流れる中ノ沢川で流木等の堆積による氾濫が発生し、道路が通行不能な状況になったことで、付近の住民及びキャンプ場・ホテルの従業員や宿泊客ら約200人が一時的に孤立しました。

当支援機構は当該村道の復旧工事に対し、公共土木施設等災害調査業務応援事業として、被災箇所の現地調査、設計のアドバイス、査定設計書の作成、災害査定の立会を行い、迅速な復旧を支援しました。

公共事業の円滑な執行を支援する事業

当支援機構では市町村等が行う公共施設整備事業の円滑な執行を支援するために様々な公益事業を行っています。

建設相談事業

- 公共施設整備事業の進め方に関する様々な質問や相談に対応します。

発注事務支援事業

- プロポーザルや総合評価方式などの委員となり、発注関係事務を技術的に支援します。

受託業務のフォローアップ事業

- 当支援機構が受託した業務について、会計実地検査のサポート等を行い、事業の円滑な執行を支援します。

公共土木施設等災害調査業務応援事業

- 災害が発生した際の被害状況の把握や災害査定の立会等、災害査定に係る様々な業務を支援します。



被災直後

復旧工事



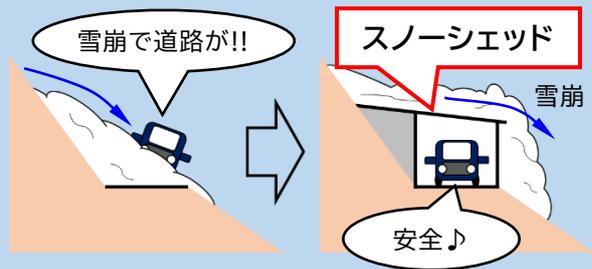
復旧工事後

当支援機構では、災害調査に関する支援をはじめ、様々な公益事業により公共事業の円滑な執行を支援しております。お気軽にお問い合わせください。

(土木技術課 Tel 024-522-5122)

只見町 スノーシェッド点検を実施しました

スノーシェッド(snow shed)とは、道路に屋根状の構造物を設置した雪崩対策施設で、発生した雪崩を屋根の上を通して谷側に流下させ、雪崩から道路やその利用者を防護する土木構造物です。福島県では主に、只見町を含む特別豪雪地帯や豪雪地帯が多くある会津地方山間部の道路に設置されています。



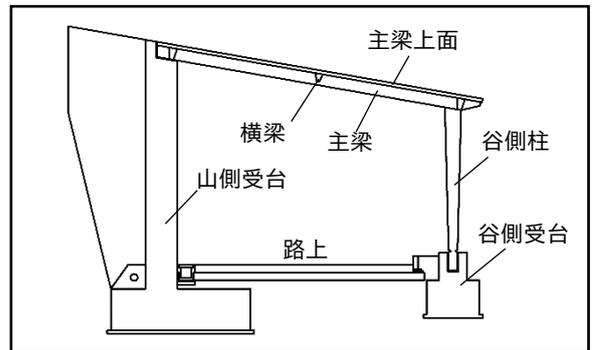
類似構造のロックシェッドは、斜面上方の落石から道路や利用者を守る落石対策施設です。

只見町が管理するスノーシェッドは、建設後35年経過の黒谷スノーシェッドと28年経過の塩ノ岐スノーシェッドの2箇所(共にPC製・逆L式)があります。

当該スノーシェッドの点検に際しては、「シェッド、大型カルバート等定期点検要領、平成31年2月、国土交通省道路局」に基づき、橋梁点検同様、部材の近接目視や打音検査による点検と点検結果に基づく健全性の診断を行います。

上部工の主梁や横梁、谷側柱や山側受台の上部については、高所作業車を使用した近接目視点検と併せて、第三者被害予防の観点から剥落に至る可能性がある浮き等に注意し、打音検査を入念に行いました。

また、主梁上面では斜面上方からの落石による損傷がないか、谷側受台の下方では河川による洗堀がないか等も確認し、健全性の正確な把握に努めました。



PC製・逆L式スノーシェッドの側面図



黒谷スノーシェッド点検の様子



塩ノ岐スノーシェッド点検の様子

当支援機構では、橋梁をはじめスノーシェッドやトンネル等の道路に附属する土木施設についても、現地条件に応じた点検・診断業務の提案と実施が可能です。お気軽にお問い合わせください。

(構造保全課 Tel 024-597-7063)

鏡石町健康福祉センター（ほがらかん）が竣工しました

鏡石町で令和4年2月より建設が進められていた鏡石町健康福祉センター（愛称：ほがらかん）が令和5年10月に開館しました。

当センターは、これまで町内に分散していた町社会福祉協議会、地域包括支援センター、シルバー人材センターなどの保健福祉機能を集約することで町民の利便性向上を図っています。



1階は集約した各団体が配置されているほか、可動間仕切りを備えた多目的ホールがあり、用途に応じた広さで健康診断やイベント等を行うことができます。



2階にはキッズスペースや調理室、交流テラスを設けており、子育ての推進や地域の交流の場としての機能も担っています。

また、地域住民の福祉避難所として災害時に使用可能なシャワー室を備えたほか、別棟の防災備蓄倉庫やマンホールトイレなども設けており、防災拠点としての機能も充実しています。

当支援機構では本センターの基本計画・基本設計・実施設計・工事監理を受託し、円滑な事業の進行を支援しました。

当支援機構では、今後とも建築事業に関する計画策定から、調査・設計・積算・工事監理に至るまで発注者の皆様を幅広く支援してまいります。

（建築課 Tel 024-522-5124）

これまでの経験を生かして

当支援機構の職員に令和5年6月より新たに高橋 佳吾(たかはし けいご)さんが加わりました。

前職では空調・換気から給排水まで様々な機械設備の施工管理を8年間行ってきたそうです。

当支援機構では設備課に配属され、機械設備の設計業務を担当しています。現場一筋だったので、デスクワークが多い環境に戸惑うこともあるということですが、これまでに培った知識や経験を生かしていきたいと意気込みを語ってくれました。

そんな高橋さんの目下の悩みは、「地名を言われてもピンとこない時がある」ことだといえます。これまで福島県で生活する機会が無かったため、「市町村が多く、覚えるのが大変」という苦労があるそうです。

現在は、研修も兼ねて他の職員の業務の補助をすることが多いですが、現場へ出向く業務があれば積極的に同行し、地図と地名を一致できるように勉強しているとのこと。



建築設備部 設備課 副主任技師
高橋 佳吾

更なるステップアップを目指して

1級管工事施工管理技士を保持する高橋さんの次なる目標は「消防設備士(甲1)」と「1級電気施工管理技士」の取得だそうです。

「今は1級電気施工管理技士の資格受験のための実務経験が不足しているので、支援機構で必要な実績を得たい。」と新たな業務分野への挑戦に意欲を見せてくれました。

何事にも積極的に取り組む高橋さんには、当支援機構で更なる成長を遂げてくれることを期待しています。

編集後記

福島県の市町村数(59)は多いという話を聞きましたので、調べてみると北海道(185)、長野県(77)、埼玉県(63)、東京都(62(23区含む))、福岡県(60)に次いで全国第6位、東北第1位という結果でした。ちなみに全国平均は約37となるようです。

……北海道は規格外としても、福島県の市町村数って多いんですね。

※出典：政府統計の総合窓口(e-Stat)(<https://www.e-stat.go.jp/municipalities/number-of-municipalities>)
(市区町村数を調べる:令和5年10月1日時点より)

【編集・発行】一般財団法人ふくしま市町村支援機構 〒960-8043 福島県福島市中町 7-17
TEL(代表): 024-522-5123 FAX: 024-522-3631
E-Mail: info2@fctc.or.jp URL: <https://www.fm-so.org/>